

これからの ESG 経営に求められること ～ 非財務情報と企業価値形成 ～

日時 2022年1月24日(月) 19:00～20:30 ※ 後日、録画での配信も実施いたします

参加費 会員:2,000円/一般:3,000円

登録方法 お申し込み方法はメールにてご案内いたします

気候変動対策を協議する COP26 がグラスゴーで開催され、環境問題への意識が高まった 2021 年。我が国においても、2030 年までの CO2 排出量削減目標を 2013 年度比で 46%減とする新目標が発表されました。

ESG 投資の順調な拡大に伴い、企業にも ESG の開示やパーパス経営が求められるなど、非財務情報の取得と開示により大きな圧力がかかることが予想されています。これに加え、本年度もエクソンモービル等の株主総会でアクティビストの推薦した環境科学者を含む社外取締役 3 名が CEO の反対にも関わらず選ばれるなど、環境アクティビズムも今後さらに活発化すると考えられます。

非財務情報を財務情報に組み込む動きはまだ始まったばかりですが、昨今の気候変動の問題が企業の経営に及ぼす影響を鑑みると、財務分析への組み込みが必須であることは明白です。今後、取締役会におけるサステナビリティ議論を更に深めるためには、環境問題に加え、ダイバーシティや女性の活躍、人権問題などの多様な非財務情報が、企業価値形成の重要な要素となることを理解しておく必要があります。

今回は、長年にわたり SDGs の実現に関与されている小木曾麻里氏をお迎えし、企業のサステナビリティや IR 活動の現場でのご経験を踏まえて解説していただくこととなりました。これからの ESG 経営に何が求められるのか、取締役会でどのように取り組むべきかを考えて参りたいと思います。

講師

小木曾 麻里 氏 SDG インパクトジャパン CEO

国際機関、財団及び戦略コンサルタントとして、ビジネスを通じた SDGs の実現に携わる。世界銀行にてインフラ、資本市場担当を経て、世界銀行グループ投資保証機関(MIGA)東京事務所長。その後ダルバーク日本代表、笹川平和財団営業企画部長、ジェンダーイノベーション部長。サステナブルファイナンス（インパクト投資）についてはその黎明期より携わり、2017年に当時アジア最大規模のインパクトファンドを創設した。また、ファーストリテイリングではダイバーシティのグローバルヘッド、人権事務局長、サステナビリティ広報部長を務め、その後日本におけるサステナブルファイナンス推進のため 2021年に SDG インパクトジャパンを設立。共同創業者兼 CEO として ESG 投資の推進及びインパクトファンドの設立運営に携わる。東京大学経済学部卒、タフツ大学フレッチャー校修士（環境、金融）。国際協力機構海外投融资リスクアドバイザー、SMBC 日興証券 ESG アドバイザリーボード、明治ホールディングス ESG アドバイザリーボード、W20 日本デレゲートなどを務める。2016年に Forbes「世界で闘う日本人女性 55」に選出。2021年日経 SDG フォーラム基調講演他講演多数。



主催



一般社団法人実践コーポレートガバナンス研究会

ウェブサイト: www.icgj.org | Mail: seminar@icgj.org | Tel: 03-3539-3208

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-18-6 クロスオフィス内幸町 3F